

平成25年度

新技術概要 (申請情報)	開発目標	経済性の向上、地球環境への影響抑制、品質の向上		
	新技術登録番号	CB-020055-V	区分	材料
	分類	コンクリート工ー コンクリート工ー その他		
	新技術名	コンクリート改質剤CS-21		
	比較する従来技術(従来工法)	表面被覆工法		
新技術の概要及び特徴	本技術は、コンクリート表面に塗布し浸透させることによってコンクリート内部の未水和セメントやカルシウム分と反応して結晶を生成し、微細な空隙を埋め防水・劣化抑制効果を発揮する。			

活用効果評価	所見	<p>【設計比較対象技術】 (総評) 全般的に申請情報の「活用の効果」と同様の評価となった。特に「工程」について高い評価が得られた。また、現場にて高い安定性を有するとの評価が得られた。</p> <p>従来技術と比較して塗布工程が少なく、降雨時の施工も可能であることから、工程の短縮が図られている。</p>	<p>項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較</p> <p>安全性 — 従来技術(従来工法) — 新技術</p>
	留意事項	材料が無色透明であるため、出来高の確認に留意する必要がある。	

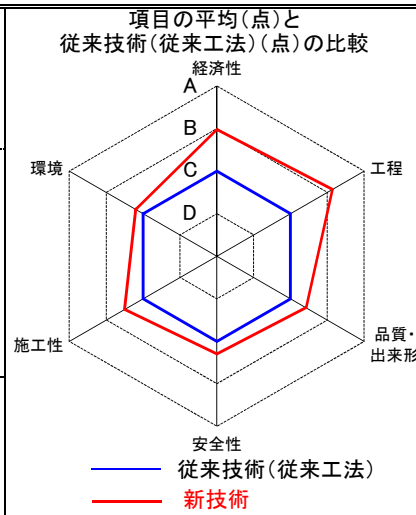
活用効果調査結果	対象工事	1	高架橋鋼上部工工事	中国地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		2	橋梁補修補強工事	近畿地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		3	橋梁補修工事	近畿地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		4	高架橋下部工工事	中部地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		5	橋梁上部工工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		6	橋梁補修工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		7	橋梁補修工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H24																	
		8	橋梁補修工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		9	高架橋下部工工事	中部地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		10	ダム堤体壁面補修工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		11	橋梁PC上部工工事	中国地整	<従来技術>	表面被覆工法	H24																	
		12	ダム堤体壁面補修工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H24																	
		13	橋梁補修工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H24																	
		14	橋梁上部工工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		15	橋梁補修工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		16	橋梁上部工工事	関東地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		17	橋梁補修工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		18	高架橋耐震補強外工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25																	
		19	橋梁補修工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H24																	
		20	ダム堤体壁面補修工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H24																	
		施工時評価	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	項目の平均(点)	従来技術(点)
	H25		H25	H25	H25	H25	H25	H24	H25	H25	H25	H24	H24	H24	H25	H25	H25	H25	H25	H24	H24			
	経済性		B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	A	B	B	A	B	B	B	B	B	B		C
	工程		A	A	C	B	B	B	B	A	B	A	A	A	B	B	A	B	A	A	A	B		C
	品質・出来形		C	C	C	B	C	B	B	A	C	B	C	B	C	B	B	C	B	C	A	B		C
安全性	C		C	C	C	C	B	C	C	C	B	C	B	C	C	C	C	B	B	B	B		C	
施工性	B	C	C	C	C	B	C	B	C	B	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B		C		
環境	C	C	C	C	C	B	C	C	C	B	C	C	C	B	B	C	C	C	A	C		C		
その他																						-		
施工時評価点	B	B	C	C	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		-		
追跡調査																						-		
総合評価点	B	B	C	C	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		-		

活用効果評価	項目	評価結果	補足
	成立性	技術として成立している	<p>内容</p> <p>技術における機能、品質、性能などを実験や理論的なもの等での確認・証明の有無</p> <p>判定区分</p> <p>技術として成立している</p> <p>技術として成立していない</p>
	優位性	従来技術より優れる	<p>従来技術に対して優れている度合い</p> <p>A 従来技術より極めて優れる</p> <p>B 従来技術より優れる</p> <p>C 従来技術と同等</p> <p>D 従来技術より劣る</p>
	安定性	高い安定性を有す	<p>各評価項目の判定結果による総合評価</p> <p>高い安定性を有す</p> <p>安定性に問題がない</p> <p>安定性が確認されない</p>
	現場適用性	広い	<p>技術の優位性が高いものの件数の多寡</p> <p>広い</p> <p>特に広いとまではいえない</p>
	区分	従来技術に比べて活用の効果は優れている。また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有し、多くの現場で良い評価を得ている。	-
追跡調査の必要性	不要	-	-
追跡調査			

平成25年度

新技術概要 (申請情報)	開発目標	経済性の向上、地球環境への影響抑制、品質の向上		
	新技術登録番号	CB-020055-V	区分	材料
	分類	コンクリート工ー コンクリート工ー その他		
	新技術名	コンクリート改質剤CS-21		
	比較する従来技術 (従来工法)	表面被覆工法		
新技術の概要 及び特徴	本技術は、コンクリート表面に塗布し浸透させることによってコンクリート内部の未水和セメントやカルシウム分と反応して結晶を生成し、微細な空隙を埋め防水・劣化抑制効果を発揮する。			

活用効果評価	所見	<p>【設計比較対象技術】 (総評) 全般的に申請情報の「活用の効果」と同様の評価となった。特に「工程」について高い評価が得られた。また、現場にて高い安定性を有するとの評価が得られた。</p> <p>従来技術と比較して塗布工程が少なく、降雨時の施工も可能であることから、工程の短縮が図られている。</p>
	留意事項	材料が無色透明であるため、出来高の確認に留意する必要がある。



活用効果調査結果	対象工事	21	高架橋下部工工事	中部地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25
		22	橋梁下部工外改良工事	中国地整	<従来技術>	表面被覆工法	H24
		23	道路改良工事	九州地整	<従来技術>	表面被覆工法	H23
		24	漁港ケーソン製作工事	北海道開発局	<従来技術>	表面被覆工法 他	H24
		25	橋梁上部工工事	北海道開発局	<従来技術>	表面被覆工法	H24
		26	橋梁上部工工事	北海道開発局	<従来技術>	コンクリート塗装工法	H24
		27	橋梁下部工工事	中部地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25
		28	橋梁床版工事	中部地整	<従来技術>	表面被覆工法	H24
		29	道路構造物工事	中国地整	<従来技術>	表面被覆工法	H25
		30	橋梁下部工工事	近畿地整	<従来技術>	表面被覆工法	H24
		31	橋梁補修工事	中国地整	<従来技術>	表面被覆工法	H24
		32	幹線共同溝工事	中国地整	<従来技術>	表面被覆工法	H24
		33					
		34					

活用効果調査結果	施工時評価		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	項目の平均 (点)	従来技術 (点)						
			H25	H24	H23	H24	H24	H24	H25	H24	H25	H24	H24	H24	H24															
		経済性	B	B	C	B	B	A	A	B	A	B	B	A											B	C				
		工程	B	A	B	A	B	A	A	A	A	A	A	B												B	C			
		品質・出来形	A	B	C	C	B	B	C	C	C	B	C	C												B	C			
		安全性	C	C	C	C	B	C	C	B	C	C	C	C													C	C		
		施工性	B	B	C	C	B	B	C	B	B	C	C	C													B	C		
		環境	B	C	C	C	B	B	C	C	C	C	C	C														C	C	
		その他																										-	-	
		施工時評価点	B	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B														B	-	
		追跡調査																											-	-
		総合評価点	B	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B														B	-	

活用効果評価	項目	評価結果	補足
	成立性	技術として成立している	<p>内容</p> <p>技術における機能、品質、性能などを実験や理論的なもの等での確認・証明の有無</p> <p>判定区分</p> <p>技術として成立している</p> <p>技術として成立していない</p>
	優位性	従来技術より優れる	<p>従来技術に対して優れている度合い</p> <p>A 従来技術より極めて優れる</p> <p>B 従来技術より優れる</p> <p>C 従来技術と同等</p> <p>D 従来技術より劣る</p>
	安定性	高い安定性を有す	<p>各評価項目の判定結果による総合評価</p> <p>高い安定性を有す</p> <p>安定性に問題がない</p> <p>安定性が確認されない</p>
	現場適用性	広い	<p>技術の優位性が高いものの件数の多寡</p> <p>広い</p> <p>特に広いとまではいえない</p>
	区分	従来技術に比べて活用の効果は優れている。また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有し、多くの現場で良い評価を得ている。	-
追跡調査の必要性	不要	-	-
追跡調査			